

年間指導計画

自然との関わりを中心とした年間指導計画を立案しました。梅雨期には、幼児の疑問を受け止め、雨の日の散歩を行いました。その実践を基に指導計画を見直し、全職員で発達の道筋を共通理解しました。自然との関わりを指導計画に位置付けたことで、その時期に目指す幼児像が明確になり、環境構成や教師の援助を具体的に考え、保育に活かすことができました。

園内の自然環境について教師が知る事が大事であると考え、専門家から園内の70種類の樹木の名前や特徴を教えてもらいました。この知識を生かし、年長組で園内散策を行い、親子で樹木のネームプレートを作りました。その経験を基に幼児から、園内マップを作りたいたいという声が出て、その思いが実現できるようにしました。園内の自然により関心をもち、心を寄せて関わる幼児や保護者が増えました。

1 はじめに

本園では心豊かにたくましく生きる力をもった幼児の育成を目指し、保育を行っています。幼児が意欲的に遊びを楽しむためには、いろいろなことに感動したり、感性を働かせたりする

豊かな体験が必要です。その中でも身近な自然を積極的に保育に取り入れることが、有効な方法の一つではないかと考えました。

2 具体的な取組

(1) 指導計画を見直し、共通理解を図る。

(2) 環境構成や援助について考える。



倉敷市立葦高幼稚園



園内マップ

(3) 幼児の心を読み解き、幼児理解を深める。
 幼児の心を読み解くため、職員間で事例検討を重ねてきました。教師が意図して準備したカタツムリとの出会いをきっかけに、自己表出できにくい幼児が探究心をもち、調べたことを友達に認められたことで、生き生きと園生活を楽しみむようになりました。その幼児の姿が刺激となり、学級の幼児が、豊かな体験をすることができました。

3 おわりに

身近な自然との関わりを中心とした指導計画を見直し、タイミングよく保育に取り入れたことで、心を動かし、変容していく幼児の姿を捉えることができました。今後も幼児の心の動きを丁寧に読み解き、柔軟に対応していくとともに、幼児の姿が変容していく過程を捉え、指導計画に戻していくサイクルを大切にしていきたいと思えます。

(令和4年度園長 岡本由美)